

日本における政治への信頼と不信

ぜんきょう まさひろ
善教 将大

近年、世界的に生じつつある政治への信頼の低下を背景に、代議制民主主義の危機が叫ばれつつある。2007年にはオーストリアで「政府への信頼を構築する」という国際的な学術会議が開催されるなど、政治への信頼の低下をいかに食い止めるかは、重要な課題として多くの論者に認識されている。また、政治への信頼に関する研究も1990年代以降盛んに行われており、様々な知見が蓄積されるに至っている。しかし、信頼の概念規定が曖昧であるためか、そこでの議論は錯綜しているように思われる。結局のところ、なぜ政治への信頼が重要なのか、さらには何が代議制民主主義の危機なのかは曖昧な状態にある。

以上の問題意識に基づく本稿の目的は、日本における政治への信頼の構造と機能の実証分析を通じて、代議制民主主義の危機とは何かを明らかにすることである。そこでの具体的な検討課題は、以下に記す4つの問いへの解答を示すことである。第1の問いは政治への信頼とは何かである。第2は政治への信頼はどのように推移しているのかである。第3は政治への信頼の変動要因は何かである。第4は政治への信頼の効果は何かである。ここでは、政治意識の基底的構造論を基本的な分析視角として設定しつつ、全国の有権者を対象とする政治意識調査を用いた定量的な分析より、以上の問いにこたえていく。

結果を先取りしていえば、本稿の貢献は以下の4点に集約される。第1は、政治への信頼の構造に関する新たな視角を提示している点である。これまで、政治への信頼は、専ら信頼を抱く対象より分類されてきた。このような政治への信頼の捉え方に対して、本稿は、信頼の質に注目する新たな視角を提示する。古典的な態度理論に基づく政治意識の基底的構造論に従えば、政治的態度は主として認知構造と感情構造のふ

たつの構造より成るとされる。この議論を参考に、本稿では政治への信頼を、認知・認識的要素の強い信頼と感情的要素の強い信頼のふたつに分類する。この認知・認識と感情という政治への信頼の分類枠組みは、本稿を貫く「縦糸」でもある。

第2は、政治への信頼の推移には異なるふたつのパターンが存在することを明らかにした点である。一般的に、政治への信頼は1980年代以降、特に1990年代に低下したとされる。しかし、そのような信頼の低下の背後には、それ以前より続くもうひとつの信頼の低下がある。具体的には、認知・認識的要素の強い政治的アクターへの信頼は1990年代に急激に低下するが、一方で感情的要素の強い制度の応答性への信頼は1970年代から2000年代に至るまで低下し続けていることを本稿は明らかにした。

第3は、政治への信頼の質ないし次元が異なることで、変動要因もまた異なることを明らかにした点である。先に述べた推移のパターンの相違は、信頼低下の原因が、政治的アクターへの信頼と制度の応答性への信頼とで異なるからである。具体的には、1990年代に生じた急激な政治的アクターへの信頼の低下は、55年体制の崩壊および選挙制度改革に伴う「流動期」の出現によってもたらされた。一方で1970年代以降より続く制度の応答性への信頼の低下は、社会・経済的変動に伴う価値観の個人主義化と、そのような新しい価値観を有する世代の「入場」によってもたらされていることを本稿は明らかにした。

第4は、政治への信頼が低下することの帰結を明らかにした点である。制度の応答性への信頼の低下は、政治への志向性の減退や政治的逸脱を生じさせることに繋がる。具体的には、制度の応答性への信頼が低い人は投票参加確率が低く、また、自身が不満に思う政治的決定を受容しない傾向にある。そのため、世代交代に伴う制度の応答性への信頼の低下は、多くの論者が主張するように、代議制民主主義を機能不全に陥らせる要因となる。しかし、制度の応答性への信頼の低下は、代議制民主主義のシステム・フィードバック機能をより効果的にする。そのような政治への信頼のパラドクスの存在を、本稿は明らかにした。

以上の分析結果は以下のようにまとめられる。第1に、制度の応答性への信頼の低下は、世代交代に基づくものであるため、容易に回復させることができない。第2に、制度の応答性への信頼を回復させたとしても、代議制民主主義が機能するとは限らない。すなわち、政治への信頼が低下していることではなく、以上の2つの問題が存在することこそが代議制民主主義の危機であることを、本稿は主張する。

もっとも、日本の少子高齢化社会という歪な人口分布は、制度の応答性への信頼の低下に伴い生じる諸問題を、潜在的なレベルに押し留めているように思う。しかし、この傾向が永続するはずもなく、いずれは信頼の低下に伴う様々な問題が浮上してくることとなろう。それを未然に防ぐためにも、代議制民主主義に代わる新たな政治システムの可能性について検討していく必要がある。